

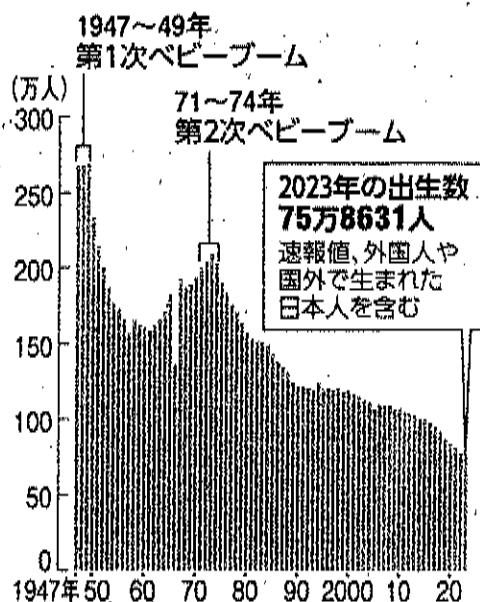
2/2.8 (4) (2)

出生75.8万人 過去最少

23年 婚姻数、戦後初50万組割る

出生数は8年連続で減少している

厚生労働省の人口動態統計から、23年以外は確定値、国内で生まれた日本人の子ども



2023年に生まれた子どもの数（外国人を含む出生数）は、75万8631人で8年連続で減り、過去最少となつた。婚姻数は48万9281組で、戦後初めて50万組を割つた。出生数は前年に初めて80万人を下回つたが、減少スピードに拍車がかかっている。

▼4面=コロナ禍が拍車

厚生労働省が27日に公表した23年人口動態統計（速報）で明らかになつた。出生数は、前年比で4万1097人減。速報値ベースで出生数が100万人を切つたのが17年。以来、3~5%程度

で減少し、22年には80万人を割った。23年の減少率は前年比5・14%で、22年（同5・12%減）よりもわずかに拡大した。

られる」とした。
23年の婚姻数は、前年比3万542組減。減少率は5・9%だった。50万組を下回るのは1993年以来となる。コロナ禍の20年に12・7%と大きく減った婚姻数は、22年に1・1%増となつたが、再び減少に転じた形だ。日本の場合、結婚と出産の結びつきが強いとされ、今後の出生数にも大きく影響しそうだ。

られる」とした。

23年の婚姻数は、前年比3万542組減。減少率は5・9%だった。50万組を下回るのは1933年以来となる。コロナ禍の20年に12・7%と大きく減った婚姻数は、22年に1・1%増となつたが、再び減少に転じた形だ。日本の場合、結婚と出産の結びつきが強いとされ、今後の出生数も大きく影響しそうだ。

今回公表の速報値は、23年1~12月に国内で生まれた日本人と、外国人の子ども、海外で生まれた日本人の子どもの会計。国内で生まれた日本人に絞り込んだ出生数（概数）は例年6月に公表される。同省の計算式に当てはめて算出すると、23年は72万人台となる。

政府は「こども未来戦略」を昨年末に閣議決定。児童手当の大額な拡充や財源確保策を盛り込んだ法案を今国会に提出している。（高橋健次郎）